

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題2

【「世界に通じる文教『都市』をめざした
人材育成の取組】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

未来を担う人材育成に、乳幼児期から取り組んでいる状態
学校教育に加えて、子どもが社会で生きて行く力を育むための「社会教育」の機会が提供されている状態

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

・天王寺区は全国学力学習状況調査では、区全体として大阪市平均を上回る傾向にある。
・区内人口の約44%が40歳未満で子どもや子育て世代が多い。（平成27年国勢調査）
（参考）

・0～19歳人口割合は 24区中5番目：平成27年10月1日現在（平成27年国勢調査）

【令和元年度 学校基本調査】

中学校数 9校（24区中3番目）
中学校生徒数 5,203人（24区中1番目）
高等学校数 12校（24区中1番目）
高等学校生徒数 15,364人（24区中1番目）
高等学校生徒数は、市全体の約20%を占める。

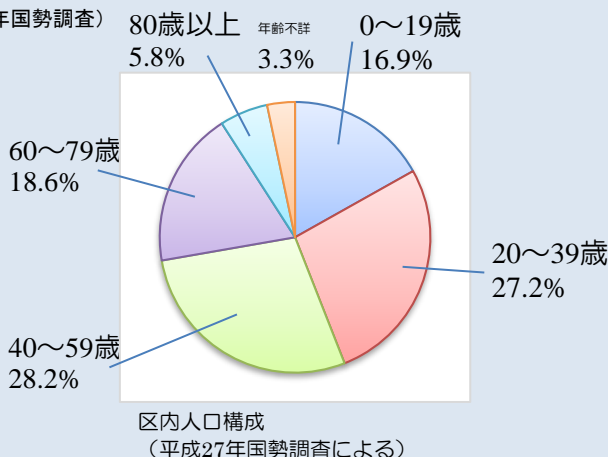
【待機児童数】

・令和2年4月1日時点
天王寺区 0人
市全体 20人
・平成31年4月1日時点
天王寺区 1人
市全体 28人
・平成30年4月1日時点
天王寺区 0人
市全体 67人
・平成29年4月1日時点
天王寺区 26人
市全体 325人（24区中3番目に多い）

【令和2年度第1回区民モニターアンケート】

防災やまちのにぎわいなど7つの事業分野のうち
子育て支援を優先する事業として捉える人が多い。
（1位）子育て支援 120人 （2位）安全安心 97人
（3位）防災 73人

（ 回答者数 419人
優先する事業分野を1位から3位まで選択、1位に選んだ人数 ）



要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

・教育に対する意識の高い保護者、地域と連携して、これまで努力してきた結果、私立の高等学校など多くの学校園が集積していると考えられる。
・区において子育て施策・人材育成施策への期待度が高い。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

・子どもへの教育投資のさらなる促進。
・社会教育の充実や子育て世帯の負担緩和など、地域特性を活かした未来を担う人材の育成の強化。
・子どもの体験活動への参加機会が減少傾向にあることから、子どもや青少年が、様々な体験、世代を越えた交流の機会や地域でのつながりづくりなどを通じて、心身ともに健やかに成長できるような環境整備。
・グローバル社会で生きていく力を養う学習機会の提供。
・「天王寺区地域福祉ビジョン」の推進。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

・待機児童対策については、新たに保育園も開設され、引き続き令和4年4月時点も待機児童は「ゼロ」となった。全市的な取組と連携し待機児童「ゼロ」の継続をめざす。
・コロナ禍の影響で、子育て支援事業の中止や形態の見直しなどにより、乳幼児期から未来を担う人材育成が積極的に進められているまちなちであると感じる区民の割合は若干低減傾向ではあるが、子育て情報アプリの利用者、子育て情報博覧会参加者の満足度は高い。
・子どもや子育て世帯を取り巻く課題は多様であり、新たな取組を進める中で、これまで重点を置いていなかった課題も明らかになりつつあり、この間の取組を踏まえ、子育てスタート応援券の交付事業を含め、今後の子育て支援施策のあり方について検討する必要がある。
・誰一人取り残されることなく、子どもの健やかな成長に必要なサポートと、社会で生きていく力を身につけるための学びの機会を提供するために、学校との連携をより一層強化するとともに、学校や保護者等からの教育に関する課題・ニーズを事業に反映していくことが必要である。

めざす成果及び戦略 2-1 【地域の未来を担う人材の育成】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>	戦略（中期的な取組の方向性）
	・外国人とのコミュニケーション力を高めるとともに、外国の文化等についても理解・尊重できる学習機会が提供されている状態 ・自分の将来に役立つと感じる、子どもが社会で生きて行く力を育む質の高い教育機会が提供されている状態 ・居場所での学習や悩み相談等の支援が必要な子どもにサポートが届いている状態 ・未来を担う人材育成に、乳幼児期から取り組んでいる状態 ・子育てに必要な情報を必要な時に的確に発信できている状態 ・重大な児童虐待ゼロの状態の継続 ・保育所待機児童が解消された状態の継続	・就学前児童及び小学生を対象に、グローバル社会に対応した学習機会を提供し、低年齢層から海外の文化・行動様式に対する理解を深めるとともに、外国人とのコミュニケーション力を育成する。 ・年齢層に応じた社会教育機会の提供とあわせて、社会との関連を継続的に学ぶうえで重要である社会貢献ボランティア活動への参画支援。 ・乳幼児期から子どもの体験・教育等の機会を提供することにより、子どもの将来への投資の促進を図る。 ・きめ細やかな情報提供や、子育て支援施設・サービスの利用促進を行うことにより、子育て世帯の子育てに関する様々な悩みや不安の解消を図る。 ・潜在的な虐待の可能性の発見と予防の強化、虐待事案へのより速やかな対応を目指す。 ・認可保育所の拡充、小規模保育事業の実施など、あらゆる手法により、増大する需要を上回る保育サービスの量的拡充を行い、就労を希望する人が仕事と出産・子育てを共に選択できるよう取り組む。 ・天王寺区地域福祉ビジョンの取組を推進する(子育て愛あいフェスティバル、天王寺区ジュニアクラブへの協力など)。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）	
	・英語交流・国際理解教室参加者の満足度 90% 令和3年度 ・自分の将来に役立つと感じる職業講話参加者の割合 90% 令和3年度 ・居場所での学習・生活相談のサポートを受けて、改善したと感じる子どもの割合 70% 令和3年度 ・乳幼児期から未来を担う人材育成が積極的に進められているまちであると感じる区民の割合 80% 令和3年度 ・子育てに必要な情報を必要な時に的確に得ることができていると感じる子育て世帯の割合 90% 令和3年度【重点目標】 ・重大な児童虐待ゼロの状態の継続 ・保育所待機児童が解消された状態の継続	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	乳幼児期における体験・教育等の取組が人材育成につながるもの、また、子育てに役立つものとして認識されていると一概に言えないこと。	
	グローバル人材育成事業参加者の満足度 95%	87%	A	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須 未来を担う人材を育成するため、子育てスタート応援券を交付することで乳幼児期の体験・教育等の機会を提供し、関心のある子育て世帯からは高評価を得ることができた。一方、子どもや子育て世帯を取り巻く課題は多様であり、新たな取組を進める中で、これまで重点を置いていなかった課題も明らかになりつつあり、この間の取組を踏まえ、子育てスタート応援券の交付事業を含め、今後の子育て支援施策のあり方について検討する必要がある。
	自分の将来に役立つと感じる職業講話参加者の割合 81%	77%	B	
	居場所での学習・生活相談のサポートを受けて、改善したと感じる子どもの割合 100%	92%	A	
	乳幼児期から未来を担う人材育成が積極的に進められているまちであると感じる区民の割合 65.5%	67.7%	B	
	子育てに必要な情報を必要な時に的確に得ることができていると感じる子育て世帯の割合 77.0%	66.4%	B	
	重大な児童虐待件数 0名	0名	A	
	保育所待機児童数 0名	0名	A	
	戦略の進捗状況	a: 順調 b: 順調でない		

具体的取組 2-1-1 【イノベーション人材の育成】

	元決算額 2,398千円	2 予算額 2,446千円	3 予算額 2,468千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	・グローバル社会において英語を国際共通語として意欲的に海外に挑戦し活躍(英語イノベーション)できる人材を育成するため、低年齢層から海外の文化・行動様式に対する理解を深めるとともに、外国人とのコミュニケーション力の育成をめざす。 「英語交流・国際理解教室」 ・親子英語体験教室(5・6歳児とその保護者) ・英語体験・国際理解教室(小学校1・2年生とその保護者) ・英語交流・国際理解教室(小学校3・4年生) ・英語交流・国際理解教室(小学校5・6年生) ・イベント型事業(就学前児童～小学生とその保護者) ・育んだ知力・学力が社会で生かされるものとなるよう、仕事で必要とされる力について、中学校と連携して、学び・体験する機会を生徒に提供し、未来の大阪・日本においてイノベーション(新たな仕事をつくり出す、今ある仕事を変革させる等)を起こせる人材の育成をめざす。 ・職業講話 中学校への講師派遣 3回 ・職業体験 中学校への職業体験受入紹介	英語交流・国際理解教室 参加者の満足度 90%以上 職業講話 自分の将来に役立つと感じる参加者の割合 90%以上 【撤退・再構築基準】 英語交流・国際理解教室、職業講話 50%未満の場合には事業を再構築する。	
		前年度までの実績	
		令和2年度 英語交流・国際理解教室 16回 ※達成状況 87% 職業講話 8回 ※達成状況 77% 令和元年度 多文化・国際理解教室(小学校1～3、4～5年生) 各4回 ※達成状況 91% 職業講話 5回 ※達成状況 60% 平成30年度 多文化・国際理解教室 4回 ※達成状況 92% 企業家ミュージアム等での学習支援 2回 ※達成状況 80% 職業講話 3回 ※達成状況 79%	

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	—	—

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	英語交流・国際理解教室 18回 職業講話 中学校への講師派遣 2回	社会で生きていくための力を身につけるための学びの機会を幅広く提供する必要がある。
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	事業参加者の満足度 95% 職業講話 自分の将来に役立つと感じる参加者の割合 80.9%	引き続き区内中学校との連絡調整を密にし、各校で行うキャリア教育と連携した取り組みを進め、中学生の学びを深める機会を増やす。 また中小企業等の事業所と連携し、自身の裁量で未来を拓いた体験など、より興味深い内容が学べるように、幅広い分野の事業所との連携を図る。
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す —: プロセス指標未設定(未測定)

具体的取組2-1-2 【次世代の地域担い手の育成】

		元決算額	184千円	2予算額	260千円	3予算額	260千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）					
	《天王寺区ジュニアクラブ活動》 学校・家庭・地域との協働により、小学校4年生から高校生を対象に、地域行事へのボランティア参加や施設体験などを行う天王寺区ジュニアクラブの活動を支援する。 活動 年5回	活動の趣旨（ボランティア等）が理解できた会員 70%以上 【撤退・再構築基準】 50%未満の場合には事業を再構築する。					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (ii)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性	—	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成 ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	ジュニアクラブ活動回数 2回(3回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止) プロセス指標の達成状況 活動の趣旨（ボランティア等）が理解できた会員 100%	① (ii)	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
自己評価	戦略に対する取組の有効性	ア	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成 ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組2-1-3 【子どもの将来のための投資の促進】

		元決算額	11,101千円	2予算額	11,096千円	3予算額	13,359千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）					
	天王寺区に生まれた子どもを持つ家庭を対象に、乳幼児期から子どもの体験・教育等の機会を提供する仕組みとして子育てスタート応援券(クーポン券:10,000円分)を交付する。 (令和3年度新規対象者数 804名)	子育てスタート応援券の利用率(人数ベース) 2歳到達者 75%以上 【撤退・再構築基準】 50%未満の場合には事業を再構築する。					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性	—	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成 ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	子育てスタート応援券の交付 747名 プロセス指標の達成状況 子育てスタート応援券の利用率(人数ベース) 71.4%	② (i)	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
自己評価	戦略に対する取組の有効性	ア	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成 ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組2-1-4 【こどもの居場所等における学び・生活サポート(こどもの貧困対策)】

		元決算額	440千円	2予算額	1,010千円	3予算額	1,010千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	学校及び民間事業者と連携しながら、こどもの居場所等での活動を、学力向上・精神面の支援につなげるため、居場所等での学習支援・生活相談に応じるサポーターの活動を支援する。	居場所等で学習・生活相談のサポートを受けて、改善したと感じる子どもの割合 70%以上 【撤退・再構築基準】 50%未満の場合には事業を再構築する。					
		前年度までの実績					
		令和2年度 学校へのサポーター派遣 2か所 居場所等(民間)へのサポーター派遣 3か所 ※達成状況 92%					
		令和元年度 学校へのサポーター派遣 2か所 居場所等(民間)へのサポーター派遣 3か所 ※達成状況 71%					
		平成30年度 居場所等(民間)へのサポーター派遣 3か所 ※達成状況 92%					

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成		—				
	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	学校へのサポーター派遣 1か所 居場所(民間)へのサポーター派遣 2か所	—					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	居場所等で学習・生活相談のサポートを受けて、改善したと感じる子どもの割合 100%	① (i)	—				
	①:目標達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組2-1-5 【小・中学校におけるカウンセリング】

		元決算額	5,944千円	2予算額	10,900千円	3予算額	11,880千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	いじめや不登校等の問題解決に向けて、小・中学校にスクールカウンセラー(臨床心理士)を配置し、児童生徒や保護者等へのカウンセリングを行う。 当年度からスクールカウンセラーを増員し、区内のすべての小・中学校(11校)に1人ずつ配置する。 ・中学校 週1日配置 ・小学校 週1日配置	小中学校の管理職が解決・改善に向かったと評価した事案の割合 45% 【撤退・再構築基準】 20%未満の場合には事業内容を見直す。					
		前年度までの実績					
		令和2年度 相談件数 227件、うち解決・改善件数 117件 ※達成状況 52%					
		令和元年度 相談件数 214件、うち解決・改善件数 106件 ※達成状況 50%					
		平成30年度 相談件数 220件、うち解決・改善件数 94件 ※達成状況 43%					

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成		—				
	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	相談件数 320件、うち解決・改善件数 179件	相談件数が年々増加するとともに、ヤングケアラー問題など、子どもを取り巻く課題が多様化している。					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	小中学校の管理職が解決・改善に向かったと評価した事案の割合 56%	① (i)	これまでの相談実績をふまえ、スクールカウンセラーを増員し、ヤングケアラーなどの課題への対応等、取り組みを進めていく。				
	①:目標達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組2-1-6 【子育て世帯の支援体制の充実】★

		元決算額	1,381千円	2予算額	1,421千円	3予算額	1,421千円
計画	当年度の取組内容	<p>・虐待担当者・保育士・家庭児童相談員・保育コンシェルジュのチームが、保健師や栄養士と連携し、こどもの心身の発達・性格行動・しつけ等のさまざまな相談への対応、専門機関や保育所・幼稚園を含む地域の子育て資源に関する情報提供を随時行う。</p> <p>・保育コンシェルジュ(2名)が、区民にインフォーマルを含めた様々な子育て資源情報の提供、出張相談を行うとともに、地域の他機関との連携の強化や情報交換を行う。</p> <p>・スマートフォン等の情報端末に対応した天王寺区子育て情報アプリ「ぎゅっと！」により、子育てに必要な情報(区内の保育園や幼稚園、医療機関、イベント情報等)を養育者に随時配信する。</p> <p>・子育て支援施設やサービスの利用促進を図るため、子育て支援機関が子育て世帯に直接取組内容を説明する場を提供する「子育て情報博覧会」を年1回開催する。</p> <p>・市民サービスの向上を図るため、保健福祉課専属のフロアマネージャーを置き、来庁目的を聞き取ったうえ円滑に窓口案内する。</p>					
		<p>プロセス(過程) 指標(取組によりめざす指標)</p> <p>・子育て情報アプリ 利用者満足度 80%以上</p> <p>・子育て情報博覧会 参加者の満足度 90%以上</p> <p>【撤退・再構築基準】</p> <p>・子育て情報アプリ 利用者満足度が50%未満の場合、事業を再構築する。</p> <p>・子育て情報博覧会 参加者満足度が60%未満の場合には事業を再構築する。</p>					
		<p>前年度までの実績</p> <p>令和2年度</p> <p>・子育て情報アプリ ※達成状況 97.0%</p> <p>・子育て情報博覧会 令和2年8月実施 Web閲覧132世帯 ※達成状況 51%(新型コロナウイルスの影響でWeb開催に変更)</p> <p>令和元年度</p> <p>・子育て情報アプリ ※達成状況 97.3%</p> <p>・子育て情報博覧会 令和元年8月実施 260世帯参加 ※達成状況 92%</p> <p>平成30年度</p> <p>・子育て情報アプリ ※達成状況 97.3%</p> <p>・子育て情報博覧会 平成30年8月実施 272世帯参加 ※達成状況 91%</p> <p>平成29年度</p> <p>・子育て情報アプリ ※達成状況 94.8%</p> <p>・子育て情報博覧会 平成29年8月実施 287世帯参加 ※達成状況 91%</p>					
		<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①	(i)				
	戦略に対する取組の有効性	—	<p>ア:有効であり、継続して推進</p> <p>イ:有効でないため、取組を見直す</p> <p>—:プロセス指標未設定(未測定)</p>				
自己評価	当年度の取組実績	<p>児童相談件数 397件</p> <p>子育て情報アプリ「ぎゅっと！」の通年配信</p> <p>子育て情報博覧会の開催 1回(新型コロナウイルスの影響でWeb開催に変更)</p> <p>保健福祉課専属のフロアマネージャーを配置 1名</p>					
	プロセス指標の達成状況	<p>子育て情報アプリ 利用者満足度 93.1%</p> <p>子育て情報博覧会 参加者の満足度 84%</p>					
	戦略に対する取組の有効性	ア	<p>ア:有効であり、継続して推進</p> <p>イ:有効でないため、取組を見直す</p> <p>—:プロセス指標未設定(未測定)</p>				
		<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>子育て情報博覧会はインターネットでの開催となったが、参加者のニーズを満たすため何が足りなかったのかを検証することが必要。</p> <p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>子育て情報博覧会の実施時に、今後の開催に向け改善すべき点を求めるアンケートを行う。</p>					

具体的取組2-1-7 【子育て相談機能の強化】

		元決算額	— 円	2 予算額	9,229千 円	3 予算額	9,201千 円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）					
	<ul style="list-style-type: none"> 発達障がいのある子どもを抱えるなど子育てに不安のある保護者が気軽に相談したり、同じ悩みをもつ親同士の情報交換等を行うことができる場（居場所）を区役所内に設置する（週1回） 認可外保育施設に巡回相談員が訪問し、不安や問題を抱えている可能性のある子どもの状況を把握し、適切な行政支援への誘導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 認可外保育所等との連携数 30件以上 居場所による相談件数 45件以上 【撤退・再構築基準】 認可外保育所等との連携数が24件以下の場合には事業を再構築する。 居場所による相談件数が20件以下の場合には事業を再構築する。 					
計画	前年度までの実績	令和2年度 ・認可外保育施設巡回数 30施設のべ215回 10施設から相談あり 連携数18件 ・居場所の開設（8月第3週～） 相談件数 67件					
	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
中間振り返り	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	—					
	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	<ul style="list-style-type: none"> 居場所の開設 51回 認可外保育施設巡回数 31施設のべ256回 10施設から相談あり 	—					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	<ul style="list-style-type: none"> 認可外保育所等との連携数 31件 居場所による相談件数 68件 	① (i)	—				
自己評価	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成	—					
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組2-1-8 【保育サービスの充実】

		元決算額	— 円	2 予算額	— 円	3 予算額	— 円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）					
	全市を挙げた待機児童対策の取組みの中、こども青少年局と連携しながら、主体的に保育所充実に向けた取組を進める。	保育所待機児童が解消された状態の継続 【撤退・再構築基準】 保育所待機児童が解消されなければ、事業を再構築する。					
計画	前年度までの実績	令和2年度 令和2年4月1日時点待機児童数 0人 ・保育所分園開設 1園(2.4.1) 令和元年度 平成31年4月1日時点待機児童数 1人 ・保育所本園開設 2園(31.4.1) ・小規模保育事業所の開設 1カ所(31.4.1) 平成30年度 平成30年4月1日時点待機児童数 0人 ・保育所本園開設 4園(30.4.1(2園) 30.8.1 30.10.1) ・小規模保育事業所の開設 1カ所(30.4.1) 平成29年度 平成29年4月1日時点待機児童数 26人 ・保育所本園開設 1園(29.4.1) ・小規模保育事業所の開設 2カ所(29.4.1 29.12.1)					
	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
中間振り返り	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	—					
	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	こども青少年局と連携しながら、主体的に保育所充実に向けた取組を実施 ※参考 ・保育所本園開設 2園	—					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	令和4年4月1日時点での待機児童数 0人	① (i)	—				
自己評価	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成	—					
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				